



関西からのメッセージ集団  
**朝日21 関西スクエア 会報**

Asahi Kansai Square21

2011.3

No.

132



—企画運営委員をされたのは2006年。その後、リーマン・ショックをはさみながらも、京都の勢いは衰えないようにも見えます。勢いを保つために、あえてお聞きしますが、京都の不安要因は何でしょうか。金融の現場からどう見えていますか。

高齢化ですね。京都市の人口はこの10年、145万人前後で横ばいですが、同じ時期に、生産年齢人口(15～64歳)は約7.32割減って95万2000人強になりました。企業の廃業件数は起業件数を上回って、企業数は10年で23.8割減、約2万5千減っています。数字をみれば都市の力は落ちているといえます。高齢化は社会基盤の問題ですから、どんな政策の手を入れるか、目が離せません。

しかし、高齢化は、金融機関から見ると「強み」の側面もあります。年金受給口座が増えることは預金の調達という面では、力強い。年金の預け入れは安定しているからです。京都中央信用金庫の預金残高(約4兆円)は全国272の信金で一番です。信金日本一が東京ではなく京都にあるのです。その預金残高を支えるのは、年金でもあるのです。

でも、貸し出し先が減ってはいけません。高齢化という弱みを強みに変えていくためには、今後、貸し出し先をいかに開拓し育てていくかという点が大事です。

—働き手が減るなかで、新しい会社、企業ははたして誕生するのでしょうか？

京都という街の特徴を考えたいと思います。

まず、京都の企業は本社を東京に移しません。京セラ、オムロン、ワコール、任天堂などの大企業や、中堅どころも多くあります。背景には京都の世界的なブランド力と知の蓄積がある。製品の改良に悩む中小企業の社長が、居酒屋でぼやいていたら、隣に座っていたのが大学の教授で、相談したらたちどころに解決策を教えてもらえたという「伝説」のような話があります。そうしてユニークな企業が生まれていった。そういう土壌・雰囲気は生きています。伝統産業が底流にあり、大学の知と企業の技術がからみあってるんですね。

それに、観光があります。濃密な生活文化を求める、海外からの観光客は増えています。平成20(2008)年の観光客が5千万人をこえたそうです。パリが4500万人なので、

高  
齢  
化  
が  
生  
み  
出  
す  
底  
力  
—京都、弱みを強みに出来る街—

平林 幸子さん (京都中央信用金庫専務理事)



「花の都を抜いた」と喜んでます。伸び出したきっかけは、米国での同時多発テロです。旅行先として「安全」ということが大切になった。それに中国人に対する訪日観光ビザ要件が緩和されましたしね。そういう時流を生かしたのは、歴史の厚みがあればこそです。

—新しい動きはあるのでしょうか？

最近気になっているのは、cool Japan(かっこいい日本)という言葉、動きです。能、狂言、邦楽などの分野で若手が、ロックと組んだりして、型破りな展開をしている。人気漫画「けいおん!」のアニメは京都の会社が制作しました。「けいおん」コスプレもはやっていて、これがパリで人気が出た。こんなサブカルチャーが京都のあちらこちらで起こっている。これまでとの違いは、ネットで世界に出ていくということです。「なんや、どうせサブやないか」と言われるよ

うなことが、その後、大化けする。はじめは社会の常識からはずれていたものが将来は古典となる例は、古くは歌舞伎があるし、織田信長でもはじめは「うつけモノ」だった。そういう芽が京都そして関西にはあると思います。

観光産業でも新しい動きがあります。中国からも「おもてなし」を求めてくるといいます。東京からも京都の生活体験パックが流行しているそうです。年末に錦市場で買い物をして、年越しそばを食べ、知恩院で除夜の鐘をついて、八坂神社でおけら参りをしてお雑煮を食べる。こんなパック旅行で、年末年始のホテルが一杯だということです。観光といってもこれまでのように神社仏閣見物だけではなく、ソフトを求めるという兆しがありますね。

足りないのは、プロデュースする力です。「サブカルチャー」とか「ソフト」とか、そんな兆しを育てていければ、若者がこの街を足場にしていけると思います。

ひらばやし・さちこ 1948年生まれ。71年、京都中央信金に入職し広報課長、秘書室長を経て、2008年から専務理事。「仕事と子育ての両立」でも活発な発言を続ける。

## 展覧会で人気投票

朝日21関西スクエアの会報にほぼ3年間にわたって連載されてきたチョン・インキョンさんの風刺マンガ「チョン・インキョンの眼」の作品展が、このほど朝日新聞大阪本社のアサコムホールで開かれました。会場では、鑑賞に訪れた人たちから、好きな作品（5点以内）を投票で選んでいただきました。投票総数は93枚。その結果、上位5位までに選ばれた作品を、ここに再掲（順不同）します。あわせて、投票結果を見てチョンさんからコメントを寄せていただきました。投票用紙の余白には「ピリッと風刺の利いたマンガを面白く拝見しました」「これからも日本の政治や世相を辛口で風刺表現してください」など、チョンさんに宛てたたくさんのメッセージも書き込まれていました。ありがとうございました。



まずこの場をお借りし、人気投票を企画して下さった朝日21関西スクエア事務局の皆様と投票していただいた多くの方々に、御礼を申し上げたいと思います。じっくり時間をかけ、時には額の汗を拭きながら、真剣に作品を選んで下さったみなさんの姿に、改めて気の引き締まる思いをしました。

選ばれた作品の中に、日常生活に関連したテーマが多かったのが印象的でした。とくに2011年2月号は、連載最後の作品にしては暗すぎるのかなと思いましたが、予想以上に多くの共感をいただいたようです。また、朝鮮半島情勢に関する作品が選ばれたのもうれしかったです。国内政治に関する作品がそれほど選ばれなかったのは、やはりその混迷ぶりに愛想が尽きたからなのではないでしょうか。

会期中、会場のあちらこちらで笑い声が聞こえていました。風刺マンガ家冥利に尽きる至福のひと時でした。ありがとうございました。  
(チョン・インキョン)



## 『吉兆 湯木貞一 料理の道』 の刊行によせて

元湯木美術館主任学芸員の末廣幸代さんから



「吉兆の料理、遑って考へればデザインです。更に遑れば茶です」。これは電力の鬼とも呼ばれた松永安左エ門(耳庵)が、吉兆の創業者湯木貞一宛に出した手紙の中で述べた言葉である。よ局的を射ているといえよう。

このほど、「世界の名物 日本料理」を胸に刻み、生涯を料理の研鑽に努めた人、湯木貞一(1901~1997)の生涯を『吉兆 湯木貞一 料理の道』としてまとめ、吉川弘文館の「歴史文化ライブラリー」から刊行した。

## 会員消息 伝言板

10歳代から学んだ当時の会席料理に満足できずにいた湯木は、24歳の時に茶の湯の料理である懐石に出会う。湯木は茶の湯での趣向を料理に生かすべく、有職故実や古典・茶会記に学ぶなどして独自の日本料理を構築していった。吉兆風と呼ばれたその料理は、美味しいことは勿論、見た目に美しく洗練されたものであった。湯木は日本料理界の巨星とも言われたが、サミット(先進国首脳会議)が日本で開かれた折には、午餐会の食事を三度にわたって担当し、87歳の時には文化功労者の顕彰を受けた。日本料理の歴史に大きな足跡を残した人である。

筆者は湯木のコレクション(主に茶道具)を収めた湯木美術館の学芸員として22年間勤務したが、そのうち11年間は館長である湯木の元で仕事をした。今回の本では、穏やかで魅力的であった湯木の人間性をその仕事と共に紹介した。(税込み1785円)

## 編著『生命(いのち)ー人体リサイクル 時代を迎えて』出版の御案内

やまぐちクリニックの山口研一郎さんから

2010年7月17日の「(改定)臓器移植法」施行以来、脳死判定・臓器移植の施行が30例を超えました(2011年1月末)。その多くが、本人の生前の意思表示のないまま、親族による承諾によって行われています。マスメディアにおいては、「深かった(家族の)きずな」「尊い決断に敬意」などの称賛の意が表されています。

家族の談話として、「本人がどこかで生きてくれていると思えることが心の支え」といった言葉が紹介されています。しかしながら、本来亡くなる運命にある方を前にしての家族の正直な思いは、「これ以上本人の体を傷つけない」というものではないでしょうか。「生命(いのち)」という視点に立つ時、脳死移植はどこかに無理を強いる「医療」のように思えてなりません。

脳死移植は、将来必ずや、移植に使われない臓器・組織の他の利用法(実験用、医薬品開発用など)に結びついていきます。それは人体の資源化・商品化につながっていきます。「人体リサイクル時代」の到来です。このような時代を迎えた私たちは、今後生命(いのち)についてどのように考え、生きていけばいいのでしょうか。

このたび、『生命(いのち)ー人体リサイクル時代を迎えて』(緑風出版、税込み2520円)が出版されました。脳死・臓器移植を始め、体外受精などの生殖医療、遺伝子診断・操作、クローン技術や再生医療など、現代の生命科学・操作が、今後の私たちの人生や生命観にどのような影響を与えていくのか、5名の著者ー山口研一郎(医師)、八木晃介(社会学)、最首悟(生物学)、天笠啓祐(ジャーナリスト)、神戸修(僧侶)各氏がそれぞれの立場で論じました。



今後の私たちの生命や身体・健康に直結する医学(医療)や生命科学の動向を黙って見過ごしていいのか、近代科学の自然な流れとして片づけていいのか、科学(医学)の発展の結果だとしてその恩恵を無条件に享受していいのか、との疑問が本書発行の原動力になっています。

本書36ページにもありますように、「技術的人道主義はゆっくりと煮立ってゆく風呂のようなもので、いつ悲鳴をあげたらいいのかわからない」(バートランド・ラッセル)のです。今、医学(医療)の動き、科学技術の動きを冷静な目でみておく必要があると感じております。

## 古本市にご協力を

神戸学生青年センター館長の飛田雄一さんから

神戸市灘区の神戸学生青年センターでは、阪神淡路大震災時の被災留学生・就学生支援活動から六甲奨学基金が生まれ、毎年4~6名のアジアからの留学生・就学生に月額5万円の奨学金を支給しています。その主な財源は毎年春に開催している古本市の収益金です。昨年は414万円の売り上げがありました。

今年も3月15日~5月15日に古本市を開催します。本の

回収は3月1日~31日です。是非ご協力をよろしくお祈いします。雑誌、百科事典、文学全集は受け付けません。送料は申し訳ありませんが各自でご負担ください。毎年約1800箱のダンボールが届きます。本の整理を手伝ってくれるボランティアも大募集中です。

問い合わせは神戸学生青年センター、〒657-0064  
神戸市灘区山田町3-1-1 TEL 078-851-2760  
<http://ksyc.jp/>へ。

## 3月12日に第19回ひょうごの食シンポジウム開催

兵庫農漁村社会研究所代表の保田茂さんから

## 会員消息 伝言板

健師、尼崎市在住)

講演2「平成の開国」とおさかな事情」

講師：鷲尾圭司氏(独任法人・水産大学校、理事長)

5. 参加費：500円(昼食は各自ご用意ください)

6. 申し込みは、氏名、住所、電話、年齢、職業、会員の有無を明記し、下記事務局宛にお申込下さい。

事務局

JA兵庫中央会アグリ対策部 ひょうごの食研究会事務局

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1

電話 078-333-6056、ファクス 078-333-6503

担当 柴田正人氏

e-mail(武正興氏): gga00620@nifty.com

URL: <http://homepage3.nifty.com/syokuken/>

以下の日程で第19回ひょうごの食シンポジウムを開きます。

1. 日時: 3月12日(土)午前10時30分～午後4時
2. 場所: 兵庫県農業者会館11階大ホール(神戸市中央区海岸通1、大丸百貨店南)
3. テーマ: 「あらためて食の大切さを考える」  
講演1「母乳育児は“日本の米文化”を守る」  
ちょっと踏んばる母乳育児はアトピーっ子も超元気に育つ  
講師: 福井早智子氏(福井母乳育児相談室、助産師・保

## 3月11日と12日に東京で TOEFL・英語学習説明会を開催

京都大学国際交流センター准教授の青谷正妥さんから

2010年度の青谷正妥のTOEFL・英語学習説明会(東京)を2011年3月11日(金)と12日(土)に京都大学東京オフィス(品川)にて開催します。

典型的な日本の受験勉強は、英語の基礎知識の養成には大変有効ですが、それを発展的に運用力につなげなければ意味がありません。効果的・効率的な自学自習のためのフレームワークと教材の提示、それが当説明会の目的です。『理念に裏打ちされた具体例がひびく説明会』にしたいと思います。

TOEIC・TOEFL iBTともに満点の英語力・学習経験、

[http://aoitani.net/TOEFL\\_iBT.html](http://aoitani.net/TOEFL_iBT.html)

5つの大学院に在学し、11の四年制大学と4つの短期大学で教えたアメリカ生活20年の経験、

[http://aoitani.net/aotani/Personal\\_Profile.html](http://aoitani.net/aotani/Personal_Profile.html)

現在在学して居るテンプル大学教育学部博士課程(第二言語習得: 数学に続き二つ目の博士号。2011年3月終了予定)での学習と研究の成果をフルに活用して、運用力

を付ける為の英語学習の総体を具体例中心に講じます。

【時】2011年3月11日(金) 16時30分～18時00分、  
3月12日(土) 15時30分～17時00分(各回同内容)

【所】〒108-6027

東京都港区港南2-15-1品川インターシティA棟27階

京都大学東京オフィス(JR品川駅東口筋向かい)

【講師】青谷正妥: プロフィール

[http://aoitani.net/aotani/Personal\\_Profile.html](http://aoitani.net/aotani/Personal_Profile.html)

【説明サイト】[http://aoitani.net/TOEFL\\_10.mhtml](http://aoitani.net/TOEFL_10.mhtml)

■ 講演全体の目的

大人の英語学習・教育の特性を理解し、具体例を見て勉強の仕方を学び、あくなき効果と効率の追求の中で、自らの学びを作っていただく事と、英語学習・教育の難しさの理解を、くじけない『ハートの強さ』につなげる事です。

登録ページ:

[http://aoitani.net:80/Registration\\_TOEFL\\_10.html](http://aoitani.net:80/Registration_TOEFL_10.html)

ちなみに、毎年9月にはアメリカ大学院留学の説明会を東京でしています。

## 『ケースブック・日本の居住貧困—子育て／高齢障がい者／難病患者』を発刊

日本居住福祉学会会長の早川和男さんから



早川和男・岡本祥浩・早川潤一編  
『ケースブック・日本の居住貧困—子育て／高齢障がい者／難病患者』(藤原書店、定価税込み2310円)の紹介です。

近年の「貧困」問題の議論はもっぱら失業や多重債務などの経済面(フロー)からで、「住居」(ストック)への関心は希薄です。住むことに不

安がなければ、人は生きていけます。住居は生存の基盤です。ホームレス、ネットカフェ難民、劣悪老人ホームなど「ハウジングブア」の社会現象に目が注がれていますが、町や村に累積する低水準住居は、子育て家庭・高齢障がい者等々に、想像を越える障害物として立ち現れています。これでは少子化の克服も無理でしょう。この15年間、私は保健師養成学校で「住居と健康・福祉」について講義してきました。保健師は新生児から障がい者、高齢者まで、家庭を訪問しアドバイスやケアをするのが仕事です。既に看護師の資格をもつ彼女たちが見た「住宅問題」が200件近く報告されています。それを整理し解説を付したのが本書で、「安心して暮らせる住居の条件」の逆説的解明になっています。福祉や家づくり関係者の参考になるとと思います。



## こんな話 姉の嫁入り

漫画家の河村立司さんから

## 会員消息 伝言板

村の学校の先生をしていた姉の嫁入りは、みんなちゃんと知っていた。

小3のときだった。いちばん上の姉が隣村へ嫁入りすることになった。

前まえから祖母や両親が結婚のことらしい話をしてた。母親は深夜まで花柄の着物を縫っている。それが姉のものだと知り、しげしげと姉の顔を眺めるようになった。

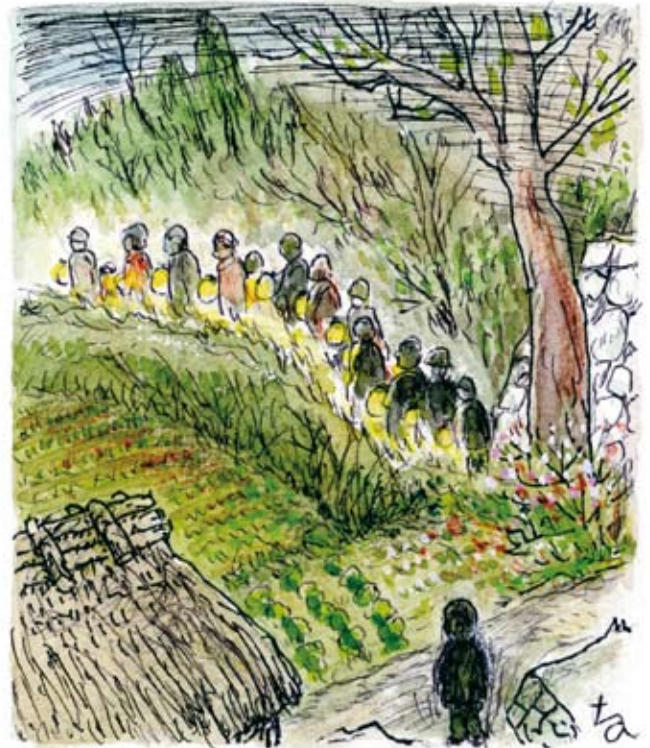
その日 came。夕方、姉は仏壇に掌を合わせ私にも低い声でなにか話して玄関を出た。

20人ほどの提灯行列が小さな峠のむこうに消えると、涙が出た。

戦前の山村の婚礼は、とっぶり暮れて婚家の座敷で明け方まで続いたらわしだった。私は独りぼっちの留守番だ。電気スタンドを点けたまま、いつしか寝入った。

翌朝、父母たちはホッとした顔で帰ってきて、豪華なご馳走を飯台に並べた。これもそれもと、その日の私の弁当箱は綺麗に飾られた。

昼休み。案の定、その大盛り弁当箱は級友のターゲットになる。鉛筆削り(コガタナ)を洗ってきたちゃっかり屋もいて、鶴と亀のカマボコはアツという間にずん胴になってしまった。質素な村のおんぼろ教室での超1級の真昼のディナーだ。



## 3月26日に邦楽サロン開催

上方文化評論家の福井栄一さんから

<地歌の演奏と楽しいお話: 邦楽サロン『日本は花の王国』>を開催します。

■日時: 3月26日(土)午後2時開演 (開場 午後1時30分)

■会場: 箏三絃なかにし

兵庫県西宮市甲子園口2-1-29(電話 0798-67-1719)

JR神戸線「甲子園口」駅 南改札口から徒歩1分

### ■内容

(1) 花をモチーフにした地歌3曲

(『つつじ』『萩の露』『けしの花』)(唄三絃: 菊聖公一、箏: 中萩あす香)

(2) ミニ講演『花おりおり』

(講師: 上方文化評論家 福井栄一)

### ■入場料

お1人様2千円(当日会場入口にて精算)

<要ご予約・先着30名様限定>

### ■お申込み・お問い合わせ

箏三絃なかにし(電話0798-67-1719)へ。

## 『自然に学んだ500系新幹線電車 —時速300<sup>キロ</sup>の軌跡—』出版のご案内

『地球に謙虚に運動』代表で元JR西日本技術開発室長&試験実施部長の仲津英治さんから

題して『自然に学んだ500系新幹線電車—時速300<sup>キロ</sup>の軌跡—』という本をデジタル版にて出版致しました。「鉄道ジャーナル」誌に2009年11月号から2010年6月号にかけて掲載されました同じ題名のものに更に一部追記したものです。

環境問題に取り組むきっかけを与えてくれた「フクロウに学び、カワセミに近づいた」500系新幹線電車の開発、走行試験の経



験談と学んだことが中心です。併せて「新幹線」の基本的なこと、そして私の43年に渡る鉄道人生において「新幹線」に関ったことも触れさせて頂いています。

PDF画像を駆使したデジタル版にしましたのは、カラー写真と画像を多く楽しんで戴きたいことと、最近パソコンなりデジタル機器を使って本を読まれる方が増えており、そのニーズに対応してみようと思ったからです。

ご注文は下記出版社にてオンラインショップで承っています。よろしくお願ひします。100部の限定出版ですので、お早めどうぞ。一冊税込みで1,500円です。

デジタル本『自然に学んだ500系新幹線電車—時速300<sup>キロ</sup>の軌跡—』の申し込み先は(株)三恵社(名古屋市区中丸町2-24-1 TEL 052-915-5211 FAX 052-915-5019) URL: <http://www.sankeisha.com>

## 国立民族学博物館で 「ウメサオタダオ展」開催

同館教授の小長谷有紀さんから

## 会員消息 伝言板



1980年撮影。千里文化財団提供。

国立民族学博物館は、3月10日(木)から6月14日(火)まで、春季特別展「ウメサオタダオ展」を開催します。

国立民族学博物館を創設し、初代館長をつとめた梅棹忠夫<sup>うめさおただお</sup>さんは、2010年7月3日に永眠しました。

梅棹さんは1920年京都市生まれ。民族学者、比較文明学者。

京都帝国大学理学部卒業、理学博士。大学では動物学を専攻したが、内蒙古の学術調査を通じて民族学に転じ、アフガニスタン、東南アジア、東アフリカ、ヨーロッパなどでフィールド・ワークを精力的におこなう。1957年に著した『文明の生態史観』では、西欧文明と日本文明は、ほぼ同じあゆみで進化したという「平行進化説」を打ち出しました。

大阪市立大学理学部助教授、京都大学人文科学研究所助教授を経て同教授。国立民族学博物館の創設に努力し、1974年から93年まで初代館長、退官後は同館顧問、名誉教授。総合研究大学院大学名誉教授、京都大学名誉教授。1988年に朝日賞を受賞。1991年に文化功労者。1994年に文化勲章、1999年勲一等瑞宝章を受章しました。

この特別展では、常に分野をこえて、平易なことばで、斬新な知見をしめしてきた梅棹忠夫の足跡をたどりながら、彼の思想の先見性や実効性をあらためて発見してください。たとえば、男女の役割の差がなくなることを予見した「妻無用論」は1959年、「情報産業論」は1963年に発表さ

れました。また、「知的生産」ということばも、かれが造語してから一般語になりました。タイトルの「ウメサオタダオ」というカタカナ書きは、そうした先覚性や革新性を表しています。

名著『知的生産の技術』(1969年岩波新書)ができるまでのカード、メモ(こざね)、原稿などそのすべてを初公開します。また、ウメサオタダオの著作集全22巻をとりあげ、それぞれの著作が、どのような観察記録から生まれたものなのかを復原します。

本展示をご覧いただき、混迷の現代を生き抜いてゆく羅針盤を、それぞれの心にお持ち帰りいただければ、と願っています。

■展示名:特別展「ウメサオタダオ展」

■会 期:2011年3月10日(木)～2011年6月14日(火)

■場 所:国立民族学博物館 特別展示館

〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1  
(TEL:06-6876-2151)

■開館時間:午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

■休館日:水曜日(水曜日が祝日の場合は翌日が休館)

■主 催:国立民族学博物館

協 力:財団法人千里文化財団

■特設ホームページ:

<http://www.minpaku.ac.jp/special/umesao/>

■本件に関するお問い合わせ先

小長谷 有紀(国立民族学博物館「ウメサオタダオ展」実行委員長、同館教授)

国立民族学博物館 小長谷有紀研究室

TEL:06-6878-8274(直通)

Mail: yuki@idc.minpaku.ac.jp

## 「1・23(いちにさん)フォーラム

### 寄付でつくる地域の未来」

淡海ネットワークセンター(〈財〉淡海文化振興財団)

事務局長の浅野令子さんから

淡海ネットワークセンターでは、2011年4月の公益財団法人への移行を機会に、民が民を支える仕組みとなる「未来ファンドおうみ」を創設します。市民の想いを込めた寄付を市民活動へ助成としてつなぎ、助成を受けた団体は活動を市民に情報提供し、また寄付が広がるという、「おたがいさまがつながり、活きる」社会を目指すものです。

1月23日(日)、この「未来ファンドおうみ」のキックオフフォーラムを開催しました。折しも、全国で「タイガーマスク現象」が注目される中、約350名のご来場がありました。

基調講演では、日本の寄付文化醸成を目指して設立された日本ファンドレイジング協会 代表理事 堀田力さんに「寄付で生まれる心の絆」と題して、「寄付には、相手のこ

とを思っているというメッセージが込められています。なぜ寄付がいるのかというと温かい地域社会をつくり、楽しく人間らしく生きたいからなのです。」とお話されました。

対談では、財団法人大原美術館 理事長 大原謙一郎さんと堀田力さんに「寄付がつくる地域の未来」をテーマに、「寄付者の想いを活かした活動をする、そして必ずカタチにし、報告することが大切だ」とお話いただきました。

会場では、県内の市民活動団体や企業による社会貢献活動の展示もありました。寄付イベントの企画を発表する展示、募金箱コーナーなど、寄付の楽しさを感じていただける一日となりました。

寄付についてご相談がありましたら、淡海ネットワークセンター(電話077-524-8440、FAX077-524-8442、E-mail:office@ohmi-net.com、URL:<http://www.ohmi-net.com/>)へご連絡ください。



## 『検察に、殺される』を出版しました

ジャーナリストの栗野仁雄さんから

## 会員消息 伝言板

事件発覚後、一カ月足らずでスピード執筆し昨年11月に出した拙著『検察に、殺される』（ベスト新書、税込み780円）のPRです。版元に刺激的なタイトルをつけられましたが、朝日新聞による世紀の大スクープが司法界を揺るがした大阪地検特捜部の証拠改ざん問題がテーマ。

前田恒彦・元検事の改ざんを隠蔽したとの「犯人隠避罪」で最高検に逮捕・起訴された大坪弘道・元特捜部長を1月29日の大阪拘置所からの保釈で初めて目の当たりにした。

記者会見で「拘置所において村木さん（郵便不正事件で特捜部に逮捕・起訴され冤罪を晴らした村木厚子厚生労働省元局長）の気持ちがあった。本当に申し訳ない」と話す目元が赤かった。悪い男ではないという印象だった。

私の古くからの友人に大坪氏と司法修習の同期の元検事で現在、関東で弁護士をしている男がいる。彼が私にこう語った。「彼が念願の大阪地検特捜部に抜擢された時、同期で祝ったが正直驚いた。特捜部も変わったなあと思ったよ。あそこは水も漏らさぬ職人肌で、頭も切れる人たちが抜擢されていた。大坪は楽しく実によく男だが少なくともそういうタイプでは絶対はないよ」と。それが事件のカギ



に思えた。大坪氏は人情肌で出会った人を引き付ける魅力があり、取調室でも相手に自分を信頼させ、容疑事実を認めさせる力があつたのだろう。「落としの名刑事」のタイプだ。だが要はアバウトだったのではないか。

村木氏の冤罪を生んだ最大の原因は、この大坪氏が部下の前田検事を重宝したことでもある。前田検事はコミュニケーション力の不足する若い世代には珍しい存在だったようだ。

公安調査庁元長官が起訴された詐欺容疑事件で、取り調べた会社社長に彼は「一緒においしいうどんをこねるように調書を作ろうよ」と語りかけたという。40そこそこで70代の社長とそんな会話ができること自体が特異である。大坪氏は彼こそが後継者だと思ったのだろう。前田検事は大坪部長の期待通り、巧みに供述調書を作ってきた。しかし真実を語るFDが・・・。「あれっ、これどうしよう」で前田氏は隠蔽工作に及ぶ。前田氏は証拠隠滅罪を認めているが、彼から故意に改ざんしたと聞かされて隠避を指示した、と身内に逮捕された特捜部の大坪元部長と佐賀元明・元副部長は「最高検の描いたストーリー。私たちは無実だ」と徹底抗戦の構えだ。

拙著で私と緊急対談をしていただいた元検事の郷原信郎・名城大学教授は、「大坪氏と佐賀氏は間違いなく無罪でしょうね」と断言している。今後の公判に注目したい。

## 活動報告

### 「社会ネットワーク分析」が大事と、懇談会で安田雪・関西大教授

#### 学生たちが、大阪府内の4商店街調査結果も報告

「朝日21関西スクエア」の2010年度の第5回懇談会が18日、大阪市北区の天神橋筋商店街にある「関西大リサーチアトリエ」であった。スクエア企画運営委員の安田雪・関西大教授が「社会ネットワーク分析」という研究手法について説明。関西大の学生らが、その手法を用いて大阪府内の4商店街で実施した研究結果を発表した。

安田教授が専門とする「社会ネットワーク分析」は、人と人、人と組織などの「関係」がテーマ。インタビューやデータ解析をもとに、調査対象内の「つながり」がどうなっているかを明らかにする研究手法という。

懇談会で安田教授は、農家間での物や人の行き来、企業内でのメールのやりとりなどの研究事例を紹介。つながりの大きさや範囲、密度などを表す図を示し、「レントゲンにかけているのと一緒で、『見えない関係』を顕在化させる」と説明した。

「顕在化させることで農家間や企業内の信頼関係を壊してしまう危険もあるが、人の考えや行動を決めるのは、年齢や性別、出身大学といった『属性』ではなく、誰と話をし、どんな支援を受けたかといった『つながり』。人を理解するには周囲とのネットワークを理解することが大事です」と

語った。

続いて、社会システムデザイン専攻の学生たちが4商店街での調査について発表。店主や客にアンケートや聞き取りをした結果、高槻センター街（高槻市）では「イベントは地域交流の役割を果たしているが、集客数の向上につながるにはいま一つの工夫が必要」、淡路本町商店街（大阪市東淀川区）では「庶民的な雰囲気や物価の安さから、商店街に対する来訪者の不満がほとんどない」と報告した。

また、関大前通り（吹田市）では「学生の飲食費が減少し、はやる飲食店の要因としては安さに加え、『一人で入りやすい』『落ち着く』などの要素も重要」、天神橋筋商店街では「チェーン店参入による店舗同士のつながりの希薄化には競争意識を高める一面もあり、それが商店街の発展につながっている」との分析結果を示した。



天神橋筋商店街で、安田雪教授（左から3人目）を囲む関西大学生



## 仕事も遊びも、ことばとともに

東 浩一（校閲センター長）



連句を巻いたことはありますか。五七五と七七を交互に詠む遊びですが、その際に「前の句には付き、二つ前の句からは離れる」ことを心がけます。雅語しか使えない連歌とは異なり、お気楽な句も出せるので、ときおり幼なじみと両吟の歌仙を楽しんでいます。ちなみに両吟とは2人で詠むこと、歌仙とは36句で完結する形式のことです。

「笠戸丸から見る月かすむ」→「ありし日の神戸の街ぞ懐かしき」→「冷飯まぜる鉄板の上」→…

神戸港を出てブラジルに向かった移民船の句に、神戸の句を続け、そばめしを詠んだ句に転ずる。次に句をつなげるとすると、「神戸の街」からは離れなければいけません。…ざっと、こんなルールです。

友人と連句を巻いて良いことは、ある程度幅広い知識を持っていないと機転がきかないため、ふだんから時事問題を始めとしているんなエピソードを気にかけるようになること、また自分ひとりの創作ではなく相手のあることなので、緊張しつつも即座に付け句が出せるよう頭をフル回転させること、等々でしょうか。何より、画用紙（本来は懐紙を使うのですが）を半分に折ったものの両面に筆ペンで句を書くだけなので、とても安上がりなのも魅力です。

話変わって。シャンソンを聴いたことはありますか。フランス語で歌という意味のシャンソンは、日本では「パリで流行した曲」の意味になっています。原曲はフランス語である

ことが多いのですが、これまで多くの訳詞家の人が日本語の歌詞を付け、日本人が日本語でシャンソンを歌うことが普通になっています。「枯葉」や「オー・シャンゼリゼ」などが有名ですが、「マイ・ウェイ」も元は「コム・ダビチュード(いつものように)」というシャンソンで、英語版が大ヒットしたものです。

♪パリのお嬢さま／でも貧しい娘／リボリ通りに暮らす／ドレスの仕立屋さん／まだまだ手助けが／必要な助手だけ／小径にいっぱい／花を振りまいて／街の空気を歌い／愛の誓いを夢み／涙どうして流すの／パリのお嬢さま／…（「パリのお嬢さま」）

いくら引用してもOKなのは、自分の訳詞だからです。わたしは何となくパリへの憧れから、大学でフランス語を履修し、シャンソンを聴くようになり、シャンソンバーに通うようになり、ついにお店の常連になってしまいました。さらに、福岡に転勤した時に、歌手やピアニストにそそのかされてシャンソンを歌うようになってしまい、自分で歌い始めると今度は自分の色を出したくなって自分なりの翻訳で歌うようになり…、まさに病膏肓に入る、です。

昨年8月に校閲センター長になりました。ことばを扱う部署ですが、仕事はもとより、上記のごとく「ことば」で遊び続けてもいる、今日このごろです。（あずま・こういち）

### 事務局から

#### 「大阪都構想」へのご意見ありがとうございました

「大阪都構想」についてご意見を募ったところ、6通のお便りをいただきました。ありがとうございました。賛成と反対は同数で3通ずつでした。

賛成では、「東京一極集中の現体制から、小さな中央政府と多くの地方政府による連邦制を念頭に百年の大計を以て議論すべき」としたうえで、「地方に密着することは地方の責任に委ね、国政は金融や外交・安全保障など国家戦略に専念すべきだ」のほか、「大阪都となり、世界にもっと貢献できるよう大阪の都市機能を発揮したい」などがありました。

反対では、「日本社会の底なし状況をどう解決いくかが根本の問題」としつつ、「大阪都構想」を「俗耳にはいりやすい思いつき構想」とした意見や、「大阪都構想の是非を冷静に理解できるよう、メディアは役割発揮を、政党は対案提起を。公務員組合員を抱えた労働運動も発信、大衆運動を展開すべきだ」との声がありました。



▽月に1回、同僚と「粉もん屋」巡りをしています。有名お好み焼き店の食べ歩きです。2月は鶴橋。繁昌していて店の前には長い行列があり、厳寒のなか待つこと40分。ようやく入れて、あつあつの一切れをほおぼったときのおいしさは極上でした。3月は天満の創業数十年とかのお店に挑みます。広島の出張でもよく食べます。宣伝ポスターをよく見るのが「カキ焼き」。海の幸・カキはいまが旬。のせて食べます。広島名物をふたつ同時に楽しめるというのがうたい文句。「それは観光客向け。地元の間人は食べないね」とタクシーの運転手さんに言われながら、食べてみたらうま

かった。お好み焼きワールドは広がります。（富永）

#### 朝日21関西スクエア会報 No.132

##### ●スタッフ

富永伸夫、浅野稔、安川嘉泰、深松真司、天野剛志、橋本正人、園真規子

##### ●事務局

〒530-8211 大阪市北区中之島3-2-4 朝日新聞大阪本社内  
TEL 06-6231-0131（内線5048） FAX 06-6443-4431  
E-mail square.k@asahi.com（PDF会報の希望はこちらへ）  
URL <http://www.asahi.com/kansaisq/>